

「人間が立ってバランスをとるしくみ」

様々な愁訴や病気はある種の

咬合干渉が引き起こす“からだのひねり”に起因することを突き止めました。

そして、この咬合干渉（スウィング干渉）を解消することで、歯科的症状に限らず、医科では治らないと言われ対症療法を繰り返すしかなかった

頭痛、首・肩の凝り、腰痛などの筋肉症状や、不眠、うつ、イライラ、無気力などの精神症状が軽減・消失することを確認しております。顔や全身のゆがみも改善します。

また、咀嚼運動の解析により、咬合面形態を追求し、噛みやすくすると首や肩が楽になることも確認しています。

首のこりとうつとの関連は各方面で注目されているようですが、多くの場合歯にその根本原因があるため、

首をほぐすなどの処置は所詮対症療法に過ぎず、一時的な改善は望めますが原因除去とはなりません。

スウィング干渉が直立姿勢に影響を及ぼすという研究は医科はもちろん歯科でも他には見当たりません。

したがって、残念ながらほとんどの医師・歯科医師にはその認識がありません。

重さ約5kgの頭は常にからだのてっぺんにあり、バランスを保ち続けています

つまり、起きて活動している間はずっとからだをひねり続けている訳です。

長期にわたって全身に影響を及ぼし続け、最終的には寝たきり等自立を失う状態に至ることを考えると、

健康寿命管理のためにも最優先の予防処置と言えます。

2本脚で歩行する唯一の動物は、人間です。

その2本足でバランスをとり歩行するセンサーを開発するには、まだ多くの

技術革新が必要だそうです。ヒューマノイド（人型ロボット）の、アトムやドラえもんが2本足で歩く日が来るのでしょうか。

下顎骨は、体の中で唯一1つの骨で関節を2つ持つ骨その上に歯槽骨が有り人間の中で最も固い歯牙が有ります。

その動きは、エネルギーの補給（捕食）咀嚼の為の物と考えられてきました。

私達は、人間が立ってバランスを取るしくみに下顎と歯が大きな役割を担っており、

2本足で立ちバランスをとる為に、下顎骨と歯牙の関係を、少しお話しします。

健康寿命を延ばすために、2本足で立ち上がり歩く事は、必要不可欠では、ないでしょうか。